

「グアム、はじめの一步」

小金澤 秋穂

国際交流、私にとってそれは、外国の人と話をしたいという単純な始まりでした。

4歳の頃に外国の人に興味を持ち、隣に偶然座っただけの人の肩をたたいたり、店や夏祭りで外国の人を見かけると、近寄って、Where are you from?と話しかけ、母をひやひやさせていたそうです。大きくなるにつれて、大胆なことはできなくなりましたが・・・そんな中、グアム訪問柏市中学生派遣プログラムを知って応募し、認定されたときは、宙を飛ぶほど嬉しかったです。

出発が近づき、ホストの家に初めて国際電話をかけた時、緊張で顔が真っ赤になり、息が上がってしまいました。

飛行機が離陸し、3時間ほどすると、空の下には青く輝く海に浮かぶ、グアム島が見えてきました。ホストファミリーと会う時間が刻々と迫り、不安と緊張で心臓が爆発してしまいそうでしたが、出迎えてくれたホストの人たちの笑顔を見てホッとしました。ホストフレンドのジョリーが、かわいい貝のネックレスをかけてくれました。いよいよこれから、ホームステイが始まるんだなあ～。と実感しました。



翌日、STフランシスの門をジョリーと通り抜けると、早速声をかけられました。とても嬉しかったです。「グアム生が酒井根中学に来たら声を掛けてあげて。」と友達にお願いしようと思いました。

英語での授業はさっぱり分かりませんでした。折り紙(鶴や箱)をあげたり、電子辞書を使って時間を過ごしました。また、ジョリーが友達をたくさん連れて来てくれて、「名前を日本語にして欲しい。」と言うので、平仮名とカタカナにしていたら、他の人も「書いて、書いて。」と言ってきました。漢字も考えてあげれば良かったと思います。

ジョリーには弟が二人います。年長のジョサイヤはサッカー少年、笑顔がステキです。年少のジェイブンは、おとなしくて静かでした。一緒にボール投げやWiiをするうちに、ジェイブンは少しずつ、私にうち解けてきました。ジョリーとは折り紙やミサンガを編んだり、一緒にリコーダーを吹いて、楽しい時を過ごしました。これらの体験は、一生の宝物です。

両都市の本当たくさんの人の支えがあってこれまでの14回があり、今後も続いて欲しいと願います。言葉が分からず、会話はできなかったけれど、パフォーマンスや遊びを通して仲良くなり、日本のこともわずかですが、伝えることができたと思います。そしてチャモロの人々のゆったりとした生活や親切にも触れることができました。相手に対し、フレンドリーな気持ちと関心を持ち、恥ずかしがらず「ハファディ!!」と声を掛けることが、始まりの第一歩と、強く感じました。グアムで声を掛けてくれた人のように・・・次の一步は会話を楽しめるようになることかしら・・・最後に、先生、柏生のみんなありがとうございました。これからも宜しくお願いします。